

男性シッター予約停止 運営に物議

性犯罪相次ぎ対応「男性」ひとくくりに批判噴出

登録する男性シッターによる性犯罪が相次いだとして、仲介サイト大手「キッズライン」が、男性シッターの新規予約の受け付けを停止した。この対応に「男性への偏見だ」との批判が上がる一方で、小児性愛の傾向のある保育者を排除する有効なしくみがない実態も浮き彫りとなっている。

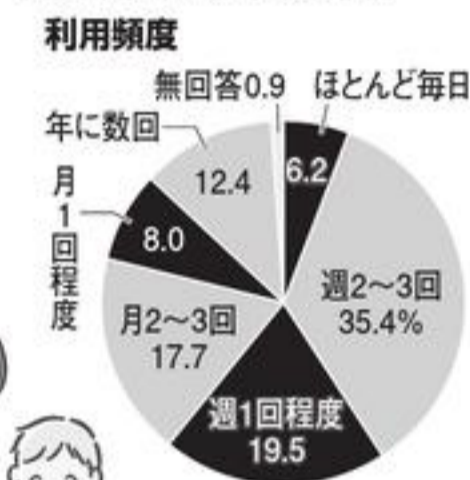
問題が発覚したのは4月。キッズラインの登録シッターで住所不定の男(29)が昨年11月、訪問した東京都内のマンションで保育中の男児の下半身を触ったとして、強制わいせつ容疑で逮捕された。この男は昨年9～11月にも都内の別の利用者宅で男児に性的暴行を加えたなどとして、6月10日に強制性交などの疑いで再逮捕された。

さらに12日には、別の登録シッターの男(30)が、東

京市内のマンションで5月、女児の下半身を触った強制わいせつの疑いで逮捕された。

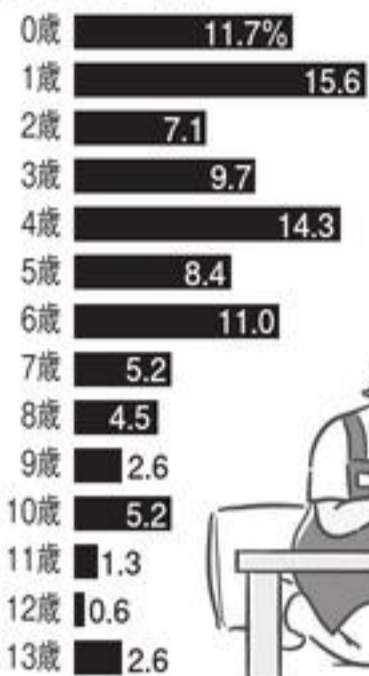
同社は今月4日、男性シッターによる訪問保育の新規予約受け付けを一時停止すると発表。同日時点で約4500人のシッターの登録があり、うち今回実質的に業務一時停止の対象となる男性シッターは、全体の約2・5%だったという。

保護者と男性シッターの間で合意があるなどの場合



ベビーシッターの利用状況

家庭訪問保育を利用する子どもの年齢



海外では犯歴照会も

ただ、極端に見える対応の背景には、性犯罪の恐れがある保育者を排除する公的なくみも十分に機能していない現状も浮かぶ。

シッターは、保育士が看護師の資格があること、または一定の講義や演習を受講していることを資格要件として国が定めている。キ

日本総合研究所の池本美香・主任研究員によると、英国では、国の機関が犯歴などの照会に応じている。採用希望者が自身で照会して証明書を発行してもらい、就職希望先に提出するしくみだ。データベースでは犯歴だけでなく、雇用主が子どもとかかわることが不適切だとみなして解雇したケースなども管理している。

昨年10月から始まった幼児教育・保育の無償化はシッターも対象になっており、池本氏は「保育士やシッターとして真面目に働く人を守る意味でも、子どもに接することが不適切な人を排除するしくみは必要だ」と話す。(伊藤舞虹、高重治、中井なつみ)

には、活動を続けられるよう検討している。それでも「男性」というくくりで門戸を閉ざすことに、関係者から批判が噴出した。

同社に登録し、都内を中心に週6日シッターとして働いてきた男性保育士(32)は「性別に関係なく、真面目に子どもたちと向き合ってきたのに納得がいかない。予約を停止する前に、面接や研修のあり方など、見直すべき点があるのではないか」と憤る。

数年前から利用している都内の30代の女性は、事件後に会員に個別に説明がないことに不信を抱いているという。「男性シッターを利用していた家庭だけの問題ではない。同じ会社のシステムを使っている以上、保護者にはもっと周知してほしい」

精神科医で性障害専門医療センターの福井裕輝代表理事によると、人口の5%程度に小児性愛の傾向があるとされ、そのほとんどが男性だという。ただ、当然、犯罪として実行に移す人は一部であるうえ、キッズラインが男性シッターを締め出しても、加害者は別の事業者で犯行に及ぶ可能性もあり、「根本的な対策になり得ない」と指摘する。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。

「男性シッター」をめぐって、関係者から批判が噴出した。